

(4) S & U コラボ事業及び要請訪問に関わる授業研究を通じた主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
7/31	(講師による師範授業 教師が児童役)	「どちらを 選びますか」	<p>【学習課題】 「説得力のある理由をもとに、グループでミニ・ディベートをしよう。」</p> <p>①児童が「考えたい！」という意欲がもてる話題を提示する。 ②学習の見通しをはっきり示す。(学習形態、対話モデルの提示等) ③日常的に、学級内の良好な人間関係を構築する。(支持的な風土の形成)</p>  <p>← 単元の導入の際に、これからの学習活動について児童が興味や関心をもち、見通せるような仕掛けを意図的に行う。</p>
9/27	四年生	「あなたなら、 どう言う」	<p>【学習課題】 「自分の生活に生かすための、よりよい対話のし方を考えよう。」</p> <p>①ベン図やキャンディーチャートの活用により、視覚的に考えを整理することで思考の深まりにつなげる。 ②「話し合い活動の進め方」、「つなぎ言葉の例」など、具体的に話し合いの方法を提示する。</p>  <p>← 各自が記入したキャンディーチャートをもとに、グループ一人一人の意見の共通点や相違点に着目しながら話し合いを進めるようにした。</p>
11/22	五年生	「伝記を読み、 自分の生き方について 考えよう」	<p>【学習課題】 「やなせたかしの生き方について心に残ったことを話し合い、自分の考えをまとめよう。」</p> <p>①単元のゴールを「生き方先生ブック」作りに設定し、自分自身が選んだ偉人を教材とすることで、児童の学習意欲を高める。 ②双方向での対話の成立のために、相手への具体的な質問例を提示する。</p>  <p>← グループでの話し合い活動では、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の話を「聴き」、それをもとに質問につなげられるように、具体的な質問話型を示した。</p>

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①学習活動の中で積極的に対話活動を取り入れることにより、児童自身が自分の考えをまとめた、相手に分かりやすく伝えたりすることができるようになってきた。
- ②各担任が国語の「話す・聞く」の単元において、「対話」が深まるような手立ての工夫や教材研究に取り組んだことで、指導したことを他教科や他領域でも活用することができた。

(2) 研究の課題

- ①対話活動を行うことで「有益感」を感じる事が、より主体的な取組につながる。そこで、児童が「話し合ったよさ」を実感できるような指導の工夫や教材を考えていきたい。
- ②「対話」を深めるためには、「伝える力」だけでなく、相手を意識した「聴く力」も必要になってくる。「学び合うこと」が楽しいと実感できる児童を育成するために、「聴くこと」に関する指導の工夫についても研究を深めていきたい。